



申
33
号



次世代 EB 装置の開発に向けた 6月13日 団体交渉を行う その2 乗務員室の新たなカメラの設置に関する申し入れ

1. 次世代EB装置の開発に向けた乗務員室への新たなカメラの設置は、乗務員が監視されていることによる過度な緊張状態を生じさせ、安全を阻害することから導入しないこと。

(回答) 乗務員状況把握システムとして、リアルタイムで乗務員の状況を把握できるカメラの検証を行うために試行的に設置するものである。

重大事故防止を図ることは認識一致 **しかし** カメラの設置を巡っては対立

乗務員の表情を映し出す新たなカメラ (しかも複数台) を設置することは、まさに監視労働
乗務員の心理的負担を増加させ、鉄道の安全を脅かすことから
運転台へのカメラ設置は断じて容認できない!

■なぜ「次世代 EB 装置」の開発が必要なのか。現行の EB 装置における課題は何か。

●乗務員の体調不良や機器取扱い誤り等による重大事故を防止することを目的としている。現行の EB は、心筋梗塞など意識を失ってしまった際には役割を果たせる。しかし、意識が朦朧とした状態で無意識に EB のリセットを行い、運転を継続した事象がある。今回、その対策として開発に着手した。

■重大事象防止のためにシステムの開発を進めていくことの重要性は、認識が一致する。しかし、乗務員室 (運転台) への新たなカメラを設置することは、乗務員が過度な緊張感や極度のストレスを感じ、視界にカメラが入ることで集中力を低下させる要因となり、心理的安全性を損ね、鉄道輸送サービスにおける安全性の低下を招く恐れがある。したがって、新たなカメラの設置は、断じて容認できない。

●主張は理解するが、重大事故を防止するためのシステムの中でカメラは必要だ。システムの実現に向けて試行的に実施していく。

■車掌の体調不良についても対策として検討しているのか。

●車掌についても検知できないか検討しているが、常に体が動いており、検知するのは難しいというのがメーカーの見解だ。

■中央総武緩行線では、最長 1 時間 15 分にわたる運転中に正面からカメラを向けられることになる。すでに、乗務員室をはじめとした車内や詰め所など、あらゆる場所に防犯カメラが設置されている。より極度の緊張状態を強いられ、通常の運転操縦に弊害をもたらしてしまう状況を生むことは、本末転倒だ。

●気持ちは分かるが、監視目的ではなく、あくまでもカメラの機能の検証を目的に試行していくものだ。徐々に慣れて頂きたい。

会社は、常にカメラを向けられ業務を遂行することについて、「決して良い思いのするものではありませんよね」と述べつつも試行への理解を押し付ける

■カメラの映像の取扱いについて、使用目的に沿った取扱いを行うこと。

●試行期間中は、本社がリアルタイムでの通信状態の確認 (本社で月に 3~4 回程度)、車両の SD カードに録画された映像を用いて太陽の映り込みや夜間の映像の確認を都度行っていく。

■リアルタイムで映像を確認する際は、事前に指令等を介し、リアルタイムで映像を確認する旨を通知すること。また、録画映像を確認する際は、当該日時に被写体となった乗務員に対し、映像の確認を行う旨を伝えてから映像の確認を行うこと。

●試行にあたり、全社員に対してカメラ搭載の周知をしてきたことを踏まえ、改めて各個人に通知する考えはない。